

国際広報メディア専攻

平成 29 年度

後期

日本語論述

10:00～12:00

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
2. 問題紙は、この紙を含めて 2 枚ある。
3. 解答用紙（25 字×40 行＝1000 字）は、2 枚ある。
4. 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
5. 受験番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
6. 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
7. 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
8. 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
9. 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1～4 のうちから 1 題を選択し、1600～2000 字の日本語（横書き）で解答しなさい。
なお、適当な位置で改行して段落に分けること。また字数は改行による空白を含めて計算する。

【問題 1】

現在の 10 代、20 代の人々はインターネットのある環境に生まれ育った「デジタルネイティブ」の世代と言える。この世代の人々の特徴を、メディアとの関わりや、政治参加および社会参加への関心という観点から、例を挙げて説明しなさい。その際に、社会に大きな影響を与えた出来事（震災や事故）やメディア環境の変化（インターネット環境の発展）だけではなく、例えば、アラブの春、オキュパイ・ウォールストリート運動、東アジアにおける若者の政治参加など、近年の社会運動の事例を挙げて論じること。

【問題 2】

インターネットを始めとする新しい情報伝達方法の普及が、従来のメディアである新聞、テレビにどのように影響を与え、どう役割分担を果たしているかについて、これまでと将来について具体例を挙げて述べなさい。

【問題 3】

異文化コミュニケーションとは、文化的背景が相互に異なる複数の個人または集団が一定の社会・文化的状況において行うコミュニケーション活動である。異文化コミュニケーションの障害となりうる要因を複数挙げ、それらを説明しなさい。また、円滑な異文化コミュニケーションを促進するために必要な（社会・集団・個人等の）条件についても論じなさい。

【問題 4】

近年では日本各地で芸術祭が開催されている。市民参加とアートによる社会の課題解決をうたったプロジェクト型の祭典も多い。札幌では、2017 年に開幕する第 2 回札幌国際芸術祭のテーマを「芸術祭ってなんだ？」とし、市民を巻き込んだ祭典を目指している。こうした各地の取り組みは新たな地域資源の発掘につながるなど、地域とアートの融合をもたらした一方、各地に芸術祭が乱立し、地域とアートの関係を再構築する必要にも迫られている。こうした近年の芸術祭の在り方を踏まえたうえで、芸術祭に市民が参加する意義、地域で行われる芸術祭の今後の課題について述べなさい。